

一般質問

◆地域共生社会の実現について

質問 本年第1回定例会でヤングケアラーに関する一般質問をしたが、その後の進捗状況について伺う。

答弁 ヤングケアラーの支援には周囲の大人の気づきが大切であり、理解を深めるため、広報紙への啓発記事の掲載や毎年開催している湯沢市地域福祉セミナーにおいても、ヤングケアラー支援をテーマに市民向けの研修を開催予定としている。

質問 全国的にも問題となっている「ひきこもり問題」と「8050問題」について、本市ではどのような支援をしているのか伺う。

答弁 制度や分野にとらわれず、包括的に相談に応じる体制や関係機関が連携して支援する体制、子ども食堂やサロン活動などの住民の身近な居場所から課題に気づき専門機関につなげる体制を整えている。

◆湯沢市地域行動プログラムの進捗状況について

質問 地域自治組織支援事業について、事業費が昨年度と比較して1144万8千円増額しているが、その詳細について伺う。



答弁 新たに高齢者世帯のごみ出しや雪寄せを支援する高齢者支援や空き家や空き地の草刈り等を対象とする空き家・空き地環境整備、スマートフォンなど情報機器の活用を推進するデジタル活用、地域資源を活用して課題解決を推進する地域ビジネス、この4項目を重点事業として創設し、実施した項目数に2万円を乗じた額を交付することとしている。

質問 地区センターの使用時間区分を1時間区分にできないか伺う。

答弁 条例改正をして、システム改修を行えば可能だと考える。今後、利用状況や利用者の声を聞きながら検討したいと考えている。

◆どうする「横堀駅無人化に伴うトイレ問題」

質問 横堀駅は公共交通のハブ的位置にあり、公共交通の乗り継ぎ等に伴うトイレ利用に関しては、現状を考慮して今後の配慮が必要と思うが考えを伺う。

答弁 JRに対して継続して要望して行くことに加え、トイレ継続利用についてどの様に実現できるのかJRや地域の皆様と一緒に検討していく。

◆どうする「地域おこし協力隊制度の活用」

質問 地場産品の開発等を行う団体や事業者からの地域おこし協力隊制度に関する要望状況はどのようになっているのか現状を伺う。

答弁 平成30年度の川連漆器伝承職人の育成以来、実績がない状況であるが、外部人材等の活用は地場産品や伝統産業を守り受け継ぐためにも必要な取組と認識している。こうした分野における地域おこし協力隊の活用



も積極的に進めていく。

質問 現役隊員には、国からの特別交付税措置により行政から報償費としてその対価が支給されるが、退任後は、所得の補償がされないという問題が発生する。この様な問題に対して技能等を取得した隊員の就労先支援または、事業者等への人件費支援は必要と考えるが、当局の考えを伺う。

答弁 退任後の就労先の確保とというのが一番重要だと感じている。退任後の職についても、今後の課題として検討していきたいと考えている。